

「令和5年度 外来における在宅療養支援能力向上のための研修」報告

【研修日】令和6年2月8日（木）

【研修内容】

講義：小規模病院の外来における在宅療養支援の取り組み

演習：事例を用いて以下3点についてグループで検討した。

- 1) 事例において必要な在宅療養支援は何か
- 2) 在宅療養支援強化のために外来看護職として自らが取り組む必要があることは何か
- 3) 在宅療養支援強化のために組織が取り組む必要があることは何か

【グループワークまとめ】

- 1) 事例において必要な在宅療養支援は何か

事例毎に違いはあるが、概ね以下の項目があげられた。

- (1) 情報の収集・提供・共有

- ・本人の意思
- ・夫以外の家族（娘や息子）でサポートしてくれる方やキーパーソン
- ・病気や治療について認識を確認（本人・家族）や薬剤管理の状況
- ・他職種との情報共有（他職種カンファレンス）

- (2) 多職種連携

- ・医師、調剤薬局、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー等
- ・患者サポートセンター（院内）

- (3) 患者・家族への支援

- ・介護保険・申請の導入（訪問看護・介護、包括支援センターなど）や療養場所（緩和ケア病棟等）決定への支援
- ・社会資源の活用（地域の状況把握と活用できる資源の提供）例：認知症カフェ、民生委員等
- ・外来時の観察（認知力、残薬確認など）
- ・病状管理への支援
- ・対象者の意思を尊重した関わり
- ・緊急入院の際の受け入れ体制を整える
- ・在宅における病状管理について

- 2) 在宅療養支援強化のために外来看護職として自らが取り組む必要があることは何か

- (1) 情報の収集・提供・共有

- ①本人を取り巻く医療の状況（病状、治療、予後など）把握する
- ②家族からの情報（病気に対する思い、在宅での症状、内服や食事の状況、経済面、サポート状況、社会資源の活用状況など）
- ③外来環境の整備（情報収集に適した場の設定）

- ④在宅療養支援（薬剤管理、生活支援等）
- ⑤記録の統一、共有と活用
- (2) 多職種連携
 - ①多職種カンファレンス（情報の共有）
- (3) 患者・家族への支援
 - ①在宅療養の指導、自己管理の支援
 - ②社会資源の活用の情報提供（利用可能なナービスやアクセス先等）
 - ③家族へのサポート
 - ④患者・家族の思いに沿ったケアの提供

3) 在宅療養支援強化のために**組織が取り組む**必要があることは何か

- (1) 情報に関する事
 - ①記録に関する体制づくり
 - ・情報共有のためのツール及び仕組みづくり、スクリーニングシートの活用（多職種で共有できるもの）
 - ・家族の情報等をカルテに取り込むシステムの導入
 - ・外来発信の連携シートの作成
 - ②患者を送る側、送られる側（地域連携）の情報共有システムとネットワークづくり
- (2) 連携に関する事
 - ①定期的な多職種カンファレンスの実施
 - ②他施設との連携（地域連携・ネットワークづくり）
 - ・急性期病院から慢性期、回復期、緩和ケア病床を有する病院、介護施設等との連携強化
 - ・地域包括センター、ケアマネジャー、調剤薬局等との連携強化
- (3) 人員配置、体制整備に関する事
 - ①外来薬剤師の配置
 - ②療養支援スタッフの配置
 - ③外来で患者・家族の話を聞くことができる環境やシステムづくり
 - ④患者・家族へ必要な支援ができるよう外来スタッフの知識を増やす
勉強会の開催、教育体制の整備
 - ⑤統一した看護提供のための体制づくり
患者・家族への支援体制に必要な人員配置、外来看護計画等
- (4) その他
 - ①通院のための送迎サービス（病院、行政）
 - ②訪問看護サービスの充実
 - ③地域の専門職の介入

令和5年度「外来における在宅療養支援能力向上のための研修」アンケート結果（まとめ）

配布 58 名 回収 58 名 回収率 100%

1. 参加者の背景

1) 年齢

年齢	人数 (%)
25～29 歳	1 名 (2%)
30～34 歳	2 名 (3%)
35～39 歳	5 名 (9%)
40～49 歳	29 名 (50%)
50 歳以上	17 名 (29%)

2) 実務経験年数

実務経験年数	人数 (%)
1～5 年	2 名 (4%)
6～10 年	3 名 (5%)
11～15 年	7 名 (12%)
16～20 年	14 名 (24%)
21 年以上	32 名 (55%)

3) 職種

職種	人数 (%)
看護師	54 名 (93%)
准看護師	3 名 (5%)
無回答	1 名 (2%)

4) 勤務先区分

勤務先区分	人数 (%)
病院	53 名 (91%)
診療所	5 名 (9%)

5) 所属部署

所属部署	人数 (%)
外来	52 名 (89%)
外来・病棟	2 名 (3%)
連携室	1 名 (2%)
救急病棟・救急外来	1 名 (2%)
透析含む	1 名 (2%)

6) 所属の経験年数

所属の経験年数	人数 (%)
1年	7名 (12%)
2～5年	24名 (41%)
6年～10年	12名 (21%)
11年～15年	11名 (19%)
16～20年	3名 (5%)
21年以上	1名 (2%)

2. 参加動機（複数回答）

参加動機	件数
知識を得るため	35件
テーマに興味があった	32件
上司・知人の勧め	20件

3. 研修内容について

1) 研修の達成度

達成度	人数 (%)
達成できた	23名 (40%)
やや達成できた	35名 (60%)

【自由記述】*主な意見

- ・自分がこれから外来看護師として何をしていくのか理解できた
- ・意思決定支援が必要、重要だと気付くことができた
- ・今後の実践で達成できるようにしたい
- ・たくさん学べたが十分ではない
- ・研修内容の実践ができるかが不安
- ・今後自施設で実践できるかは不明

2) 分かりやすさ

分かりやすさ	人数 (%)
非常にわかりやすい	15名 (26%)
わかりやすい	39名 (67%)
無回答	4名 (7%)

3) 内容を実践に活かせるか

実践への活用度	人数 (%)
非常に活かせる	14名 (24%)
活かせる	26名 (45%)
無回答	18名 (31%)

4. その他の感想等、意見（主な意見）

- ・ 知識を学べる機会となった
- ・ 他病院の取り組み等が聞けて良かった
- ・ 事例の GW では活発に意見交換が出来た
- ・ 外来の情報交換の場がもて、とても有意義な研修だった
- ・ グループ構成が大学、総合、中小クリニックとそれぞれの立場からの意見がとても興味深かった
- ・ 他の施設の外来の状況も聞くことが出来て良かった
- ・ 知識を学べる機会でした
- ・ 自院でも活かせるよう持ち帰ります
- ・ もっと外来看護の研修があると良い
- ・ 第2回の外来看護在宅療養支援の勉強会も実施してほしい